

労戦統一県下労働者との連帯を に抗して県下労働者との連帯を 物販、上映を地域で展開しよう—中野委員長提起

第12回
定期大会
第1日目

日刊
動労千葉

87. 10 19
No. 2681

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）九三五六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

初日から白熱した討論が行われる 原職奪還へ大会後スト権投票実施



「原職奪還へ再度スト権投票を実施する」と答弁に立つ布施書記長。（10月16日、大会第1日目）

動労千葉との 血盟にかけ闘う

—反対同盟—

三里塚反対同盟より北原事務局長、鈴木幸司氏、関西より永井満氏が駆け付けられ、「九〇年二期概成粉砕が動労千葉との血盟に込めること」（北原氏）、「芝山町議選を全国の仲間の運動にする」（鈴木氏）、「右寄りに流れる中でこれを許さず最先頭で闘うことを願う」（永井氏）と連帯の挨拶を述べた。

会計監査報告（村田監査員）が行われた後、経過及び八七年度予算案、八七年度運動方針案等について一括質疑に入った。

迂回発光な討論調を展展開

◎鉄道労連革マルは勝共連合と同盟し日の丸を掲げた。四・七デッチ上げで当局と一体で攻撃してきた。一掃しよう。（幕張）

◎十一月全民労連発足で葛飾区労協も全的統一を目指している。動労千葉の態度は。五六・五七予科を早く機関士にしたい。（新小岩）

◎血を流して闘ったことが七五〇名組織を堅持した。動労千葉の闘いが中曽根の攻撃を許していないことを確認し、しぶとく闘う。駅当局を使ったタレ込みを許さない。元凶は鉄道労連だ。（津田沼）

◎方針に執行部の決意を感じる。労戦統一でただ反対だからと反対グループとやるのは反対。動労千葉も県下で重要な位置を占めている。主体的に入って闘う立場でやってほしい。（幕張）

◎七五〇名組合員、三〇名争議団、清算事業団の三者が一緒に闘っているのは動労千葉だけ。職場では人間扱しろと怒りが充滿している。四・七デッチ上げで本務を外されたが十月一日に復帰をかちとった。（幕張）

◎十一名が駅に配転されたが動労千葉魂で闘いぬいている。ローテーション化を会社に明確化させるべきだ。（銚子）

◎駅の闘いでもっと横のつながりを。各種分科の体制を考え直す必要があるのでは。「六三・三ダイ改」での検修合理化はどうなっているか。（検・修）

◎運転保安問題でいかに当局をテーブルにつかせるかが問われている。鉄産労が多い中で駅当局のいやがらせをはねのけ闘っている。掲示板の早期設置をかちとろう。（乗務員）

◎ミルクスタンドに配転された。八・五津田沼、九・二千葉転と青年部は闘っている。乗務員がカーテン、あごヒモをやっているのを見るとくやしい。指導を。（津田沼）

（裏面につづく）



会場は、組合員、家族、傍聴者多数が詰めかけた。

県内に勤労千葉の 運動を展開しよう

討論をうけ、本部からは布施書記長が答弁を行い「原職奪還の闘いについては今年度中に決着をつけるフシを構える情勢が来る。大会後、再度スト権一票投票を実施し闘いを構える。右翼労戦統

一には反対である。勤労千葉の団結をはかる尺度は色々あるが、自力で組合費を集められるかどうか、動員力がどの位きくかなどがある。三里塚闘争の中で自分自身が強化されている。昨年と違うのは「四・一」を過ぎていくかどうかで、勤労千葉はスト前で全体の三〇〇分の一、スト後でも三〇〇分の一でありこの成果を確認しよう」とこの間の闘いを総括し、成果を確認した。

さらに、中野委員長から、労戦統一問題について勤労千葉の考え方が全体に提起された。「全労連が十一月二〇日発足し、総評が三年後に解散を決定したが、勤労千葉も無縁ではない。組合が形骸化し、力が無くなり、要求が通らなくなったからひとつになろうという流れと、もうひとつは、支配階級の中からの労働運動を再編するという流れがミックスされたものであり、われわれにとっでは「百害あって一利なし」だ。われわれは、県内労働者と語り、連帯を深めてやっていかなければならない。地区労の中でも『勤労千葉はこう闘っている』と、物販運動などを展開しているのではないかと締めくくり、大会第一日目を終了した。